

6月20日 第29回 市教組定期大会 開催される

6月20日（土）小倉リーセントホテルにて、上記大会が来賓無し・委任状での大会参加等の「新型コロナウイルス」感染対策を行い開催されました。開閉会行事をなくし、従来の大会の約半分の2時間程度で閉会しました。



大会冒頭の執行委員長あいさつでは、①人事院勧告・人事委員会勧告での一時金への危惧、②地方財政の体力不足を理由とする人件費の削減への注視、③「変形労働時間制」の労使協議の現状、④「コロナ」対策のとりくみと更なる要求について提起されました。

今大会の議案の大きな特徴は、運動方針を①市教組が主体となつてとりくむもの、②県教協が主体となつてとりくむものと分け、**集中と選択**をもって市教組運動を推進するという提起です。大会での「市教組は憲法問題について運動をしないのか」という質問に対し、執行部は「県教協運動を強化する立場で運動にとりくむ。地域共闘に今以上に集中する」と答弁しました。



大会討論は3本、総括討論は1本ありました。迫間代議員からは、職場でのパワハラの実状の指摘から、協力協働体制の職場作りの大切さが報告されました。安永代議員と松田代議員からは、安倍政権への不信感と責任の追及や憲法堅持のとりくみの大切さが提起されました。三原代議員からの総括討論では、2021年1月末にある北九州市議会議員選挙において、門司区から出馬する前執行委員長小宮敬子さんを当選させるために、「職場の仲間や身近にいる友人に向け、声に出して小宮さんをアピールし応援していこう」と力強いエールがありました。



2019年度決算及び総括、2020年度運動方針、第5号議案から11号議案の中では、県教協委員会に臨む態度、他団体役員承認、専門委員承認、選挙管理委員承認、救援委員承認、4名の北九州市議選候補の推薦が可決されました。

大会終盤では、小宮敬子からの決意表明がありました。「選挙戦も残り7ヶ月となりました。多くの方と出会い、つながりを深めていきます。みなさんには、多くの声かけをお願い致します。力一杯がんばります。」

